

令和4年度 第4回 伊佐見小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年2月24日（金） 9時00分から11時45分まで
- 2 開催場所 伊佐見小学校 体育館・会議室
- 3 出席委員 市川 光自、伊代田 尚志、小粥 裕里、高橋 由佳子
中村 勝信、古谷 幸美、古橋 廣一、松原 圭吾、
村上 久美子（学校支援コーディネーター）
教育委員会 小川 誠司
- 4 欠席委員 池野 浩司、犬塚 三利
- 5 学 校 芦田 康宏（校長）、米山 由紀子（教頭）、長尾 夏未（教務主任）、
鈴木 史恵（CS担当）、間瀬 仁美（CSディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 協議事項
（1）令和4年度の伊佐見小学校評価について
（2）令和5年度の伊佐見小の教育構想について
（3）令和4年度の学校運営協議会の評価について
- 8 会議録作成者 CSディレクター 間瀬 仁美
- 9 会議記録
協議に先立ち、体育館にて6年生を送る会の参観を行った。

議長の選出

前回の協議会で議長が古谷委員を指名しており、一同異議無くこれを承認した。

協議内容

（1）令和4年度の伊佐見小学校評価について

長尾教務主任より、12月に実施したアンケートの結果に基づく令和4年度の伊佐見小学校評価と、それを踏まえた令和5年度の取り組みについて説明があった。

（2）令和5年度の伊佐見小の教育構想について

引き続き、芦田校長より令和5年度の伊佐見小の教育構想についてグランドデザインの解説を交えて説明があった。

（1）、（2）について熟議を行った。

- ・先生と子供の認識が違う。先生の要求が高すぎるのではないか。（「児童は挨拶ができていると感じているが、教職員や保護者は、挨拶ができていないと感じている。」という学校評価について）自分は限られた接触ではあるが、挨拶は子供からしてくれる。（中村委員）
- ・キャリア教育の「キャリア」とはどのレベルのことを言っているのか。（中村委員）

→キャリア教育は、社会的経済的自立を目指しており、つなげる力（人間関係形成）、見つめる力（自己理解・自己管理能力）、深める力（課題対応能力）、将来を見通す力（キャリア形成）と子供たちには分かりやすく表現している。今学んでいることが将来どのようにつながっていくのかを学校行事や授業を通して指導している。1-2年生なら「自分たちの役割や価値」、3-4年生なら「自分と友達の良さを認める」、5-6年生なら「将来と今の自分を結びつける」というように発達段階に応じて行っている。（学校からの回答）

- ・3月13日からマスクが自己判断となり、自転車のヘルメットも4月から努力義務となるが、子供たちの反応が楽しみ。子供たちの動きを注視していきたい。（中村委員）
- ・学校評価に保護者とのギャップがあるのは当然。（高橋委員）
- ・ただ勉強ができるかどうかより、いろいろな子がいていろいろな考えがあるという違いを認められる心の強い子を育てるために、自分たちに何ができるか考えていきたい。（高橋委員）
- ・6年生を送る会を見て感動した。（古谷委員）
- ・（自身は老人会の役員もやっているが）今、社会福祉協議会・老人会・PTAを一本化していこうという意見が出ている。（中村委員）
- ・少年団は子供だけでなく保護者も育てている。老人会は地域を育てている。そういったところでボランティアをして下さる方々は子供を育てると同時に地域や保護者も育ててくれていると感じる。（市川委員）
- ・子供たちの成長を見てはいるが、なかなか全体を見ることは難しい。いろいろな場を設け、子供と接する機会を増やせば、お互いにプラスになるのではないかな。ボランティアに参加した方のアンケートでは、参加して良かったという声が多かった。制約もあり大変だとは思いますが、子供と関わる機会を増やしていけばもっと良くなるのではないかな。（小粥委員）
- ・子供たちはいろいろな世代の人と接することで成長する。（古谷委員）
- ・ヘルメットについて新聞に出ていたが、本来ならヘルメットがなくても大丈夫な、交通事故のない社会を大人が作らなければいけないのではないかな。また、以前、湖東中学を一般公開していたことがあり、発達学級を見学した。難しいとは思いますが、そのような機会があっても良いのではないかな。（高橋委員）
- ・地域が子供たちを育てるが、そこをどう学校と絡めていくのか、今後も話し合いが必要だと感じる。（伊代田委員）
- ・PTA会長としていろいろな学校のPTA会長と話す機会があるが、伊佐見は地域の方が協力的だと感じ、ありがたい。世代を超えて参加できるボランティア活動を増やして欲しい。（松原委員）
- ・コミュニティ・スクールの取り組みで、学校支援コーディネーターがパイプ役となってくれて、地域の方が学校に来る機会が増えている。（古谷委員）
- ・一年目はコロナで思うように活動できなかったが、二年目は活動が増え、地域の方が学校に来る機会も増えた。保護者にもさくら連絡網を通じて周知できるようになった。アンケートを実施して来年度に活かしていきたい。活動の中では職業講座が市P連で最優秀賞を受賞することができた。来年度は地域の方にも参加していただき、身近な職業についても

紹介してもらい、学校を見てもらいたい。ただ、活動の際は駐車場がネックか。(村上コーディネーター)

→協働センターの駐車場は、使ってくれて構わないと言われた。(中村委員)

→長年、大成工業様にご厚意で駐車場を貸していただいていたが、現在はトラックの出入りもあるので安全面に注意したい。今後の保護者の駐車場については、PTA会長に協働センターと話してもらっているが、幼稚園も使用しているため、うまく調整して保護者の負担を軽くしていきたい。(学校からの回答)

・子供たちに自分たちも成長させてもらっていると感じる。良い相乗効果が生まれている。(古谷委員)

・コロナの感染対策をしっかりしてくれているため、伊佐見小では感染が大きく広がったり学級閉鎖となったりするような事態も起きていない。各家庭、地域の基盤がしっかりしていると感じる。また、伊佐見地区のコミュニティ協議会が発足したが、伊佐見小学校がコミュニティ協議会とうまく関わっていくことで、地域に開かれた学校になっていける。(芦田校長)

・伊佐地川学習の際、興味のある子、無い子、いろいろな子がいた。先生はもっと興味を持って学習して欲しいと感じるので、食い違いが生まれるのではないか。しかし、そこはそれほど気にしなくて良いのではないか。(古橋委員)

・資源回収は、以前は子供たちが各戸を回ったが、今回は公民館に持って行った。事情はいろいろあるだろうが、子供たちには自分たちにできることを自分たちでやり、社会貢献できるようにって欲しい。(古橋委員)

→現在、資源回収の引き取り値が下がっているが、出来ることをやり、引き続き継続していきたい。また、業者から回収場所を二カ所に集約するよう言われており、JAと大人見公民館の隣に回収ボックスを設置することになった。(芦田校長)

・学校教育・地域教育で「いさみっ子」が育まれていく。子供も大人も関係なく、絆が大切。その真ん中に「いさみっ子」を。(古谷委員)

・ランドデザインの「児童理解の充実」とは何か。(古橋委員)

→子供の表面に出てくる事だけでなく、科学的な根拠に基づいた理解で、具体的にはアセスという方法や生活アンケートを行っている。(学校からの回答)

古谷委員から令和5年度の伊佐見小の教育構想について承認を求める発言があり、一同異議無くこれを承認した。

(3) 令和4年度の学校運営協議会の評価について

米山教頭より令和4年度の学校運営協議会の評価は資料にまとめている旨の説明があった。

・他の学校の様子はどうか。伊佐見小の協議会はどううまく運営できているのか。(伊代田委員)

→基本的に上手く回っていると思って良い。協議会は地域や学校によって全然違い、それぞれの地域に合った運営をしてくれれば良い。伊佐見小では、例えば防災に関

することというように、地域にあった話し合いをしてくれている。(教育委員会小川)

その他、報告・連絡事項

(1) 夢をはぐくむ事業の報告

米山教頭より伊佐地川学習、図書に予算を活用した旨の報告があった。

(2) 「いじめ防止等のための基本的な方針」策定について

米山教頭より従来の指導に加え、新たに「いじめ防止等のための基本的な方針」策定について協議している旨の報告があり、その件に関して来年度の第1回学校運営協議会で議論したいとの説明があった。

(3) 令和5年度の委員について

教頭より今年度で委員を終了する委員と継続する委員についての説明があった。

(4) 令和5年度の会の持ち方について

教頭より来年度の協議会の日程、議長、会の冒頭の挨拶担当者について説明があった。

以上、この議事録が正確であることを証します。

令和5年2月24日